

2016年3月期第2四半期 決算説明会における質疑応答

開催概要

- 【日 時】2015年11月12日(木) 13:30~14:40
【場 所】株式会社ゼンリン 東京本社 (ワテラストワー12階)
【出席者】代表取締役社長 高山善司
代表取締役副社長 網田純也
執行役員コーポレート本部長 松尾正実

質疑応答概要

以下は、質疑応答の概要をまとめたものです。

Q1：ADAS（先進運転支援システム）の状況について

A1：詳細はお答えできないが、国内外で ADAS 用のテストデータを作成して検証等を進めている。時期はメーカーによって様々だが、例えば 2020 年頃には高速道路から、あるいは高速道路から東京オリンピック・パラリンピックの選手村まで等の話が出ている。政府の成長戦略と歩調を合わせながら進めて行くが、整備する高精度空間データベースは ADAS だけではなく GIS（地理情報システム）などでの活用も視野に入れて広げて行きたい。

Q2：GIS パッケージ商品の状況について

A2：これまでは GIS は高価であったが、中小企業でも導入しやすい戦略的な価格帯で、業種や業務に特化してパッケージとして展開している。売切り型ではなく、月額課金のストック型ビジネスであり、解約率も低く堅調に推移している。いかに多くのお客様にご利用いただくか（ID 数獲得）が重要であり、機能アップしながら営業強化している。今期新たに 2 タイトルを展開するが、業種・業務別のパッケージであっても、整備する住宅地図データベースを有効活用するものなので利益率は高い。

Q3：スマートフォン向けサービスの有料会員数の状況と

今後の ICT（information and Communication Technology）事業の成長計画の中身について
A3：スマートフォン向けサービスの有料会員数は減少傾向が続くが、減少数は緩やかになっている。ICT 事業は東京オリンピック・パラリンピックに関するものが大きく、交通系や主要施設でのデジタルサイネージによる多言語地図情報のほか、会場への案内や各種コンテンツなど様々な取り組みを進めている。

Q4：業績予想修正開示にある下期へずれ込んだコストについて

A4：コストの内容としては、売上時期変更に伴うものや新規企画案件など不確定なものであり、その他は細かなものの積み上げによる。

Q5：ADAS のコスト回収について

A5：具体的な時期等は未定である。
ユニットとして納品し、メンテナンス等にて回収する、あるいはクラウドによる月額/年額課金もあり得るが、現状として決まっていることはない。まずは高精度空間データベースの整備を着実に進める。

Q6：ADASにおける国の基盤との関係やグローバル展開について

A6：国が進める自動走行（自動運転）システムと連携して進めており、協調領域、競争領域を明確にして、収益を確保したい。

グローバルでは各国・地域にある現地地図会社と連携することが重要と考えている。

グローバルで見れば日本の地図が進んでいると考えており、当社の共通フォーマットで各社へ提供する形がベストであり、当社はその技術力があると自負している。

Q7：カーナビゲーションの地図とADASの地図は別ものと考えてよいか

A7：別もの。

カーナビゲーション用の地図データベースは、画像や音声で運転者の目や耳での認知・判断を促すもので、ADAS用の地図データベースとは異なる。

一方、ADAS用の地図は、運転者に代わって自動車（コンピュータ）が認知・判断、並びに操作にあたる部分を支援するもので、レーン単位で、道路に対する付帯設備の詳細なレベルまで整備が必要であり、より高精度な地図データベースとなる。

以上